

令和6年度第2回出雲地域保健医療対策会議 議事概要

【日時】令和7年3月24日（月）13時30分～15時30分

【場所】出雲保健所 大会議室

【出席者】委員 18名 事務局 10名 計 28名

【議論のまとめ】

■ 第8次計画における重点目標について

- ① 子ども世代に関して減塩等の食生活、不登校やひきこもり支援など原因を捉えた取組みを行うとともに、医療的ケア児への支援も今後もしっかり進めたい。
- ② 健康寿命延伸に向けては、予防対策の重視と高血圧等基礎疾患管理について歯科医院・薬局等関係機関との連携をより深め、チームで進める取組を強化したい。
- ③ 医療機能分化や連携について、病床ひっ迫が大きな課題となる中、圏域として病床をどう整えるかが重要であり、住民目線で「このような医療が受けられるといい」との意見も必要と考える。病院や施設での医療提供については、医療福祉の人材確保も重要となる中で人材不足の課題は大きいですが、ぜひご協力をいただきたい。

【議事内容と主な意見】

1. 第8次島根県保健医療計画に沿った対応状況について（資料1）

【島根県立中央病院】小児救急救命センターについて、島根大学医学部附属病院は総合周産期母子医療センターの機能を有しており、集中治療はよいが、「救命救急」と名称がつくことで軽症患者も含めた患者が集中することが負担になると想定され気がかり。

（事務局）地域で小児の救急患者を軽症から重症までどう対応するかというご提案だと認識。

他圏域と連携し、役割分担を図りつつ取り組むことが重要と考えている。

2. 令和6年度の各団体・機関における取組について（資料2）

【出雲地区歯科衛生士会】通いの場等でオーラルフレイル等予防の啓発に努めているが、フレイルに比べて口腔機能は飲み込みにも影響があり、口腔の衰えが先に来ることはあまり知られていない印象。本日配布の啓発チラシは出雲保健所と共同作成し、子育てサロンにも持参し啓発。

【島根県看護協会出雲支部】地域で健康支援の研修会や、健康測定等健康維持や疾病予防の支援を行う「まちの保健室」を展開。まちの保健室は5回開催し、昨年度の倍以上である約270名が参加。今できていることを認めることで、周囲を巻き込んでいい影響力になってもらうよう取り組んでいる。人材確保に関しても、進学ガイダンスでの魅力発信に加え、まちの保健室を通じて看護職に興味を持ってもらえるような取組みも出来たらと考える。

【出雲市高齢者クラブ連合会】住み慣れた地域で安心して暮らせることを目標に活動。フレイル予防を第一に、スポーツ大会の開催やグランドゴルフ、ボッチャ、モルック、ペタンクなどを取り入れている。コロナ後最近参加も増えつつあり、3.4世代交流のゲームや肩たたきなども実施。

通院やスポーツ大会も免許返納すると交通機関を思うように利用できず、特に独居の人は動きにくい。フレイル予防と言いつつ外出したい気持ちがあっても簡単に出かけられない状況があり、要望にもあげているが交通手段の問題点は大きい。

【出雲商工会議所】事業所向けには出雲保健所からの原稿を会報誌に掲載して約 2400 部を発送、毎月開催する役員会でのチラシ説明・配布、認定取得した年間 5.6 社の企業の取組紹介などを実施。健康経営は認定企業が昨年度より増加、関心が高まっている。職員向けには、毎月チラシを配布したり、福利厚生としてスポーツ施設利用体制を整備している。

【出雲市】

医療介護：あんしんノートやルピナスネットいずもの活用、市独自に条件不利地域への体制整備として訪問介護へも対応。課題としては身寄りのない高齢者への対応が増加。

福祉推進：引きこもりの相談が増えており、子どもが高齢の親を頼っている人も多いが、特に若い年代へは優先事項として関係機関と相談して対応。

母子保健：不妊治療助成の利用は増えており、継続と制度を一部拡充。

健康増進：セットがん検診を増やすと対象者が増えるので、拡充予定。

感染症：コロナやインフル流行したが、啓発をして出来るだけ予防できるように進めたい。

【出雲市消防本部】救急件数が増加し、今年に入って搬送困難事案が増えている。受入照会が 4 回以上かつ 30 分以上の事案は過去 5 年で 25 件あったが、今年以後 14 件発生。病床ひっ迫に関連して、現場滞在時間が長くなり、圏域外への搬送も生じている。

（島根県立中央病院）後方支援病院へ転院できない事例も多く、他圏域も含めた病床稼働状況から退院調整が滞ってご迷惑をかけたところもある。

（事務局）全体的に病床ひっ迫状態で、後方支援病院も満床で急性期病院からの転院先がなく、退院者がいないと次の患者が受けられない状態が米子や松江も含めて同時期に発生した。出雲は隣接圏域からの入院患者も多数受けており、病状安定後はより居住地に近い病院への転院となるが、稼働病床の影響で転院先調整に難航。入院者の平均年齢が高くなると、入院後に合併症含めた対応が必要となり入院日数が延び、退院まで日数を要することで更なる病床ひっ迫につながる。圏域としては Web 会議開催で情報共有し、退院促進・転院調整に対応いただいた。今後も起こりうることだと思うので、隣接圏域とも情報共有しつつ、軽症者は施設や在宅で必要な対応をお願いするなど体制を検討したい。

3. 出雲圏域における重点目標について【資料 3】

① 健康増進課

■ 健康寿命延伸に向けた取組強化

【島根県立中央病院】喫煙のことが気になり。男性は下がっているが女性は 0.9→3.9 と増えており要因は何か。数年経過すると肺がんになるので食い止める必要があるが、若年層か。

（事務局）本調査は 4 年に 1 回実施しており、次回調査時の動向をみる必要があるが、全体的に喫煙率は低下。健康長寿しまねの運動・たばこ部会で、高校生を対象とした街頭キャンペーンや商業施設での啓発も実施しているが、今後は更に若い世代として中学生も対象とし、早期から喫煙の身体への悪影響について理解を広げたい。女性の喫煙の年代は若年と思うが、

妊婦の喫煙が問題とのご指摘があったので、次年度以降も取り組みたいと考えている。

【出雲市歯科医師会】健康長寿しまねに歯科分科会もあり、健康長寿には歯科が重要と認識。8020運動は、20本あることである程度食べられることからH1年にスタートし、当時は8004だったが、現在は15.16本が平均で約半数の人が達成している。一方で残歯があることで、年齢的にも高齢になると内服の関係もあって唾液量が減るため虫歯ができやすく、虫歯や歯周病が増加。年齢とともに虫歯のでき方も変わり、残歯がある分定期的に受診してメンテナンスが必要となる。併せて、基礎疾患を有している患者も多く、糖尿病や骨粗鬆症との連携も重要。通院困難な場合は訪問型も必要だが、出雲市周辺部の閉院もあり、歯科医師の平均年齢が60歳であることから訪問歯科診療が難しい実情もある。

【島根県薬剤師会出雲支部】医薬品の準備が出来ず、薬が現場にないのが問題。解決は難しいが近隣医療機関とも連携しつつ対応。喫煙に関しては、電子タバコは臭いも出ないので若い人が手にとりやすく、普及パンフレットを作成して利用している。

【島根大学医学部環境保健医学講座】まめインフォで県民向け動画を作成しているが、来年度新型たばこの項目を追加予定。働き盛り世代へのアプローチが難しいため、新しいコンテンツも作成しつつ、eラーニングとして提供。

【出雲圏域健康長寿しまね推進会議】たばこと運動の分科会を合同とし、分科会相互の連携が取れ対策も強化された。新たな課題も出て来年度さらに充実すると考える。啓発では事業所へのPRもメール発信することで、ウォーキング参加者も増加しており、啓発媒体の見直しも重要。

【出雲市立総合医療センター】独居や老々介護が増加する中、背景にひきこもりの問題があり、その根幹に不登校の影響があると感じているが学校保健の対策がどうなっているか気がかり。減塩など他の健康問題も含め、医師の治療も重要ではあるが、その原因を突き詰めて介入していくことが必要と感じている。

■ 医療依存度の高い在宅療養児への生活支援体制の構築

【出雲医師会】出雲市内の幼・保育園では看護師配置も多いが、実際保育園での受入にはハードルがあるため、保育園と園医が連携して取組みたいと考えるも、看護師1名体制で重症ケア児が受け入れられるかの問題はある。

② 心の健康支援課

■ 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築推進

【島根県立こころの医療センター】R4年度精神保健福祉法が改正されR6年度から施行しているが、より患者さんの人権に配慮する方針に伴い、長期入院ではなく短期間での退院や地域移行促進が後押しされている。1年以上の長期入院患者は減少しているが、入院年数が経過すると退院調整が困難になる傾向があり、1年以内の退院を目指すことが円滑。

③ 医事・難病支援課

■ 医療機能分化や連携を図り、効率的な医療提供体制の確保

【出雲市立総合医療センター】外来医師不足地域として、平田地区で診療所が担う役割が困難になった際の在宅医療を中心に話し合ったが、開業医の先生も手一杯でありこれ以上閉院が出て

もサポートする余裕はない状況。総合医療センターでも医師の高齢化が進んでおり、若手医師の補充がないと成り立たず5年が目安。医療DXや遠隔診療について、Patient With Nurseの形式でコミセンなどに患者さんに来てもらって看護師が支援する方法が現実的。救急患者について、5年前を100とすると170%受入れており、「今を乗り切れば」ということではなく、感染症流行と関係なく常に満床状態。今後看護師のマンパワー不足で更に深刻化する印象もある。

④ 衛生指導課

■ 食品等事業者へのHACCPに沿った衛生管理の監視指導

【出雲医師会】ノロウイルスの検査は3歳以下と65歳以上しか保険点数取れないが、食品関係の仕事をしている患者等が心配され、どこでも気軽に検査が出来ない啓発が必要。ノロウイルスへの恐怖や警戒心があり、保健所での受入れや検査体制はどうか。手洗いなど基本的予防策が重要となるが、誤解もある。

(事務局) 簡易キットでの検査は感度が低くPCRは高額になる。検査はその時の状況しかわからず、その直後に感染する可能性も前提としており、食品を取扱う場合は検査ありきの考え方ではなくノロウイルスを保有していることを前提とし、手洗いをしっかり行うこと、盛り付け等のリスクの高い工程時には衛生手袋を着用することなど、衛生管理について対策を取るよう説明。

4. 新たな地域医療構想の方向性について（資料4）

【島根県立中央病院】：基準病床数と必要病床数の整合性について、生産年齢人口が減る中で医療スタッフは不足し、供給可能病床数が減少すると提供可能な医療機能も限定される。特別な要因がなくても救急ひっ迫する現状では必要病床数が確保できるかギリギリで、受けたいときに医療を受けることが困難になりつつあることを理解する必要もある。

(事務局) 出雲圏域では75歳・85歳以上の高齢者が増加し、独居高齢者や高齢者のみ世帯も増える。国全体の方向性はあるが、委員からのご提案にもあるように出雲圏域としてどうあるべきか、実情に合った対応が必要。圏域で議論するには高齢者施設や高齢者住まい、サービスつき高齢者向け住宅や有料老人ホームの状況も含めて考える必要があり、今後に向けてご意見いただきたい。現在の入所者の平均年齢が上がると要介護度もあがるため、高齢者住まいで生活している人の医療介護ニーズがどうなるかが検討すべきポイント・